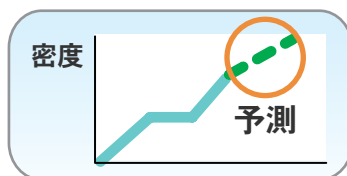
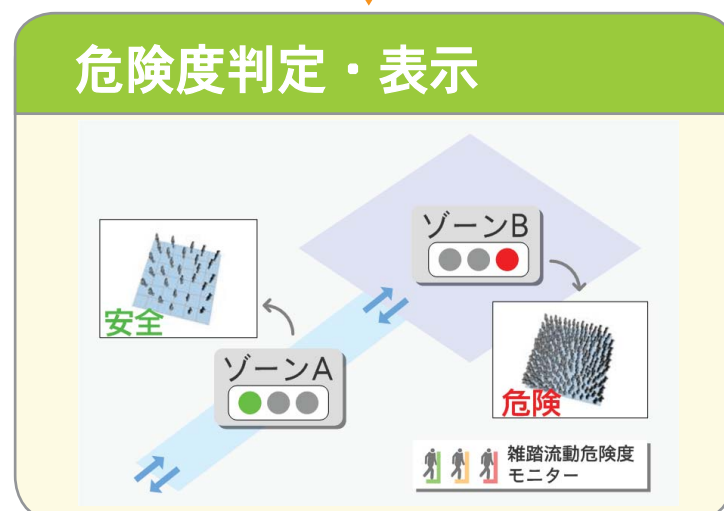
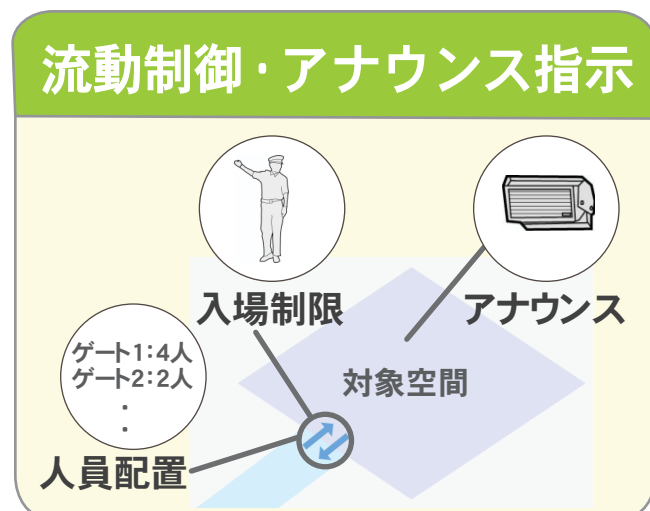
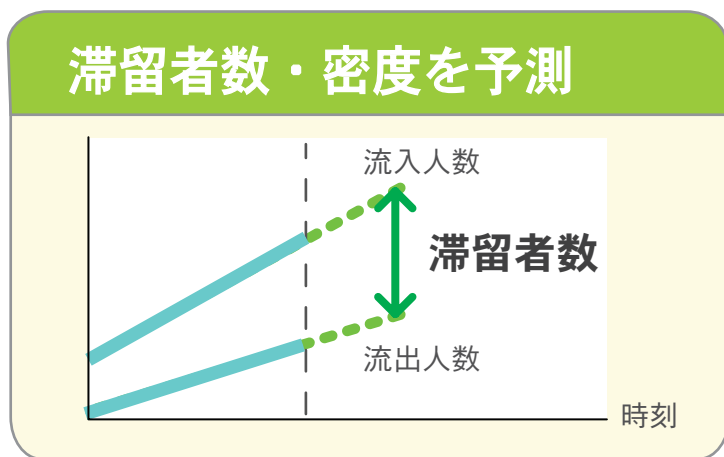


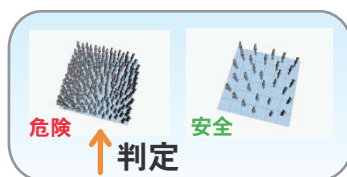
群集事故の未然防止を支援します

雑踏流動危険度モニター



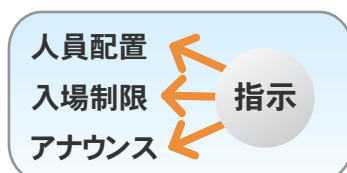
群集密度を予測

「雑踏流動カウンター」データから群集密度を予測します



危険度判定

予測した群集密度の危険性を分かりやすく表示します



事故防止策の指示を自動化

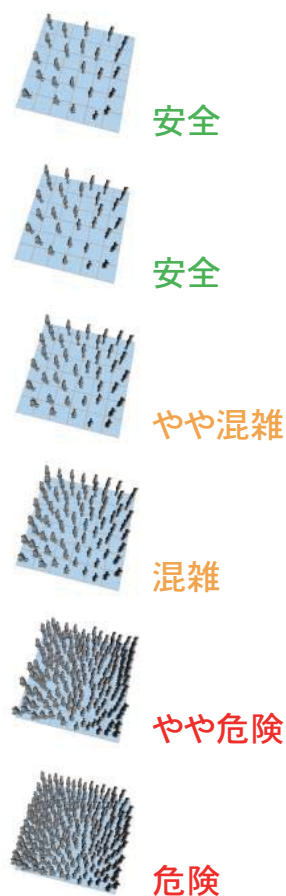
人員配置や入場制限、アナウンスの指示出しを自動化します

「雑踏流動危険度モニター」は 雑踏流動カウンターのデータを活用し、 群集事故を未然に防ぐ危険予測システムです

- 群集事故の主要因である群集密度を予測することで、事故を未然に防ぐための情報を得ることができます。
- 予測した群集密度を動画、サービス水準、解説によってモニタへ提示し、管理者が一目で状況を把握することができます。
- 危険性に応じて人員配置や入場制限、アナウンスの指示出しを自動化することで、管理者のミスを防ぎます。

■ 群集密度にもとづく危険度レベル表示内容の例

- A 密度：0.8 人 /m² 以下**
周囲の人に迷惑をかけずに自由に通り返られる空間が与えられる。
- B 密度：0.8 ～ 1.0 人 /m²**
不自由ではあるが迷惑をかけずに間を通り返られるだけの面積がある。
- C 密度：1.0 ～ 1.4 人 /m²**
立って待つ人々の中を通り返けることは、周囲の人々に迷惑をかけずには行えない。
- D 密度：1.4 ～ 3.3 人 /m²**
他人と接触することなしに立って待つことはできるが、その間を通り返けることはきわめて困難。
- E 密度：3.3 ～ 5 人 /m²**
周囲の人との接触は避けられない。待ちの中を通り返けることは不可能。
- F 密度：5 人 /m²**
立っていることはできるが、周囲の人との密着した状態が避けられない。



■ 機器構成

雑踏流動危険度モニター装置

一式

雑踏流動カウンター（CED システム）の雑踏流動計数管理装置へ組み込むことが可能です。